



NPO法人地域医療を育てる会(千葉県東金市)理事長
藤本晴枝さん

平成17年「地域医療を育てる会」を発足、理事長に就任。地域医療を守る代表例として全国各地で講演や発表を行っている。

自治医科大学医学部教授
地域医療学センター長
梶井英治さん

昭和53年自治医科大卒。鳥取中央病院での研修を経て地域医療に従事。その後、母校に帰り、平成20年4月から地域医療学センター長



ともに考え 守ろう地域の医療

地域医療を守り育てるフォーラム開催

地域医療の現状や課題について住民、医療関係者、行政が互いに認識を共有し、理解を深めようと、市が主催する「地域医療を守り育てる市民フォーラム」が1月14日、一関文化センター大ホールを会場に催されました。

予定を大幅に
上回る参加者

当日は、両警地区の住民、医療関係者、行政担当者など約550人が参加。会場は、中ホールを予定していましたが、参加申し込み者が予定を大幅に超えたため大ホールに変更。この課題への関心の高さをうかがわれました。

開会に当たり勝部市長は「医療を守るといふことは地域を守るということ。行政の最優先の課題であり、しっかりと取り組んでいきたい。今更以上で地域の医療を自分たちで守るといふ意識を持つて今後の活動の参考にしてほしい」とあいさつ。一関市医師会の長澤茂会長は「当地域で医療に従事してくれる人の招へいが求められている。隣県、隣接地との連携などにより解消していきたい」と語りました。

フォーラムは、基調講演とパネル討議を通して医療の現状と課題に理解を深め、それぞれが行う役割などを考えました。

基調講演では、初めに自治医科大学地域医療学センター長の梶井英治教授が「住民、医療機関、行政の協働で地域医療を支える」と題して講演した後、千葉県東金市のNPO法人地域医療を育てる会理事長の藤本晴枝さんが「地域医療を育てる会の活動」と題して、自身が発足に携わった同会の活動について紹介しました。

地域力を結集した
取り組みを

梶井教授は、全国の医師不足の現状をはじめ、地域医療を守りたいと立ち上がった各地の先進事例を紹介。住民、医療関係者、行政がそれぞれ意識を改革した上で「地域医療を守ることはまちづくりそのもの。地域を守りたいという住民一人一人の気持ちを結集することが地域力であり、大切なこと」と地域全体で取り組むことの必要性を指摘しました。

また、「医療の本質は心の交

流。一緒に考え、思いやることで育まれていくと思う」と訴えかけました。

地域が変われば
医療が変わる

藤本さんは、自身が住む千葉県東金市の県立東金病院の院長から病院の内情を説明され、医師不足の現状を目の当たりにしたことを契機に「自分ができることは何か。医療現場を知ったり、考えながら活動していこう」と活動を始めた経過を振り返りました。

主な活動は「情報発信」と「病院と住民との対話づくり」と語り、地域医療の問題を分かりやすく伝える教材となる絵本の作成など、取り組みを紹介。これまでの「相互通行」の情報発信ではなく、「相互通行」で病院や行政が深刻な状況を発信し、住民はその情報に耳を傾けて医療現場の課題を知る努力が必要と指摘しました。

「自分が変われば地域が変わる。地域が変われば医療が変わる。もうお客様でない」と結びました。

それぞれの立場から
意見交換も

基調講演の後、住民活動団体、医師、行政で医療問題に携わる3人によるパネル討議が行われ、意見を交わしました。

「朝顔のたね―千厩病院を守り隊」会長の遠藤育子さんは、活動の経過を振り返り「知る、学ぶ、伝えるを基本に明るく楽しく病院と住民との懸け橋になりたい」と語りました。

一関市医師会副会長の中野淳平さんは、同医師会が開設計、年々受診者が増加傾向にある休日当番医、小児・成人夜間救急当番医の取り組みを紹介し、「医師会の活動が基幹病院を助けている」と実績を報告。また、平均年齢が高くなってきている開業医の現状にも触れ「医療の高度化、多様化、休日当番医などにより開業医も疲弊している。かかりつけ医を持って、よく相談し、病院と診療所を効率よく利用してほしい」と呼び掛けました。

一関保健所長の菅原智さんは、県内の医師不足の状況とその背景、医



大勢の参加者が訪れ、熱心に聞き入っていました

パネラー紹介



遠藤育子さん
「朝顔のたね―千厩病院を守り隊」会長。住民に病院主催の講座内容などを分かりやすく伝える活動を展開中。



中野淳平さん
一関病院循環器内科長などを経て、中野内科循環器科クリニックを開院、同院長。一関市医師会副会長。



菅原智さん
岩手県医療局に入局以降、各地の県立病院で外科医として勤務。県立大東病院長などを経て、一関保健所長。